

勝田有恒教授 経歴及び業績

雑誌名	駿河台法学
巻	19
号	2
ページ	173-181
発行年	2006-02-28
URL	http://doi.org/10.15004/00000114



勝田有恒教授 経歴及び業績

- 一九三一年 四月 勝田信・瑛の次男として熊本に出生（本籍地東京）
- 一九三八年 四月 東京高等師範学校付属小学校入学
- 一九四四年 三月 東京高等師範学校付属国民学校卒業
- 一九四四年 四月 鹿児島県立第一中学校入学
- 一九四五年 五月 長野県立野沢中学校転校
- 一九四五年一月 鹿児島県立第一中学校転校
- 一九四八年 三月 同校四年修了
- 一九四八年 四月 第七高等学校（旧制）理科入学
- 一九四九年 三月 同校一年修了
- 一九五一年 四月 一橋大学法学部入学
- 一九五七年 三月 同校卒業
- 一九五七年 四月 一橋大学大学院法学研究科修士課程入学
- 一九六〇年 三月 同課程卒業法学修士
- 一九六〇年 六月 一橋大学助手（法学部）採用

- 一九六三年 四月 一橋大学法学部講師昇任 西洋法制史担当
- 一九六六年 四月 一橋大学法学部助教授昇任 大学院法学研究科担当開始
- 一九六七年 八月 西ドイツ・フンボルト財団給費生に採用マックス・プランク・ヨーロッパ法史研究所、コローイング教授のもとでヨーロッパ近世法史を研究
- 一九六九年 七月 帰国
- 一九七二年 三月 一橋大学旧中和寮寮監就任（二年間）
- 一九七五年 四月 一橋大学法学部教授昇任
- 一九七七年 一月 一橋大学学生部長就任
- 一九七九年一〇月 同職任期满了
- 一九八一年 四月 一橋大学評議員併任（二年間）
- 一九八三年 五月 日本学術会議政治学・法律学研究連絡委員
- 一九八四年 五月 一橋大学評議員併任（一年間）
- 一九八五年 三月 文部省短期留学 出張先 西ドイツ・オランダ・イタリア
- 一九八六年 五月 一橋大学法学部長就任
- 一九八八年 四月 同職任期满了
- 一九九〇年 四月 比較法文化論開講
- 一九九一年 三月 比較法史学会設立発起 同学会理事
- 一九九一年一〇月 西洋私法史開講

一九九五年 三月 一橋大学法学部教授停年退官

一九九五年 四月 一橋大学名誉教授

一九九五年 四月 駿河台大学比較法研究所教授就任

一九九五年 四月 駿河台大学比較法研究所長就任（五年間）

一九九五年 四月 比較法史学会理事長

一九九六年 四月 駿河台大学法学部教授就任

一九九九年 法文化学会顧問

一九九九年 四月 駿河台大学大学院法学研究科長就任（三年間）

二〇〇五年 三月 駿河台大学法学部教授停年退職

所属学会

法制史学会、日本法哲学会、民事訴訟法学会、比較法史学会、ドイツ社会文化史学会、比較法文化学会、法文化学会

非常勤講師授業担当

成蹊大学、独協大学、立教大学、法政大学、慶応大学、國學院大学、中央大学、名古屋大学、明治大学の各法学部、亜細亜大学、京都大学、名古屋大学、明治大学の各法学研究科のほか、山形大学人文学部、慶応大学文学部、東京女子大学

このほか、武蔵野市情報公開委員長、武蔵野市第三期基本構想・長期計画策定委員長、武蔵野市特別職報酬等審

議会長等歴任

《著作目録》

I 編著書

- 『法制史文献目録Ⅱ』（ローマ法・西洋法制史編集）（法制史学会編）（創文社、一九八三年）
『蟻塚教育体制への警鐘』（高坂正顕・河上倫逸と共著）（世界思想社、一九九〇年）
『概説西洋法制史』（山内進・森征一と共編著）（ミネルヴァ書房、二〇〇四年）
『ヨーロッパ近世・近代の法学者たち』（山内進と編著）（ミネルヴァ書房、二〇〇六年出版予定）

II 論文

- 「Rezeptionの素描」法学研究（一橋大学）四（一九六二年）
「フライブルクのツァジウス―近世ドイツ法学者の横顔」一橋論叢四八―四（一九六二年）
「一九世紀末に至る普通法論的Rezeption論」一橋論叢四九―三（一九六三年）
「Rezeption論視角の展開」一橋論叢五〇―六（一九六三年）
「メルヒオール・フォン・オッセの半生」一橋論叢五二―六（一九六四年）
「ヨーロッパ近世法史の動向と課題」一橋論叢五四―三（一九六五年）

- 「フリードリッヒ・バルバロッサといわゆる『ローマ法の理論的継受』」法学研究（二橋大学）六（一九六六年）
- 「一人の法律家」一橋論叢六三―四（一九七〇年）
- 「法史学からの訣別？―西ドイツの場合」一橋論叢六四―五（一九七〇年）
- 「法制史教育の現状と問題点―西ドイツ」法制史学会編『法制史教育の現状の問題点』（一九七三年）
- 「帝室裁判所規則（一四九五年）の成立」一橋論叢六八―四（一九七二年）
- 「最古の大学特許 Authenticum Habita」一橋論叢六九―一（一九七三）
- 「ヴィアカーの近世私法史学についての覚書」一橋論叢七〇―六（一九七三年）
- 「ラント立法と法学者―一六世紀ブランデンブルクの一例」一橋論叢七二―六（一九七四年）
- 「ウールリッヒ・ツァジウスの『人文主義的』法律学について」人文科学研究（二橋大学）一五（一九七五年）
- 「ロンカリア立法―レガリーエン・大学特許状」西洋法制史料選Ⅱ（一九七五年）
- 「帝室裁判所規則」西洋法制史料選Ⅲ（一九七五年）
- 「ドイツにおける中世的普通法理念の高揚と凋落」法学研究（二橋大学）九（一九七五年）
- 「民法の基礎 外国 近世・近代」五十嵐清編『民法学の基礎知識（二）』（有斐閣、一九七五年）
- 「ユスチニアヌス皇帝と売春問題」人権通信六四（一九七六年）
- 「カール・ラートゲンの『行政学講義録』―ドイツ型官治主義の導入―」手塚豊教授退官記念論文集『明治法制史政治史の諸問題』（慶応通信社、一九七七年）
- 「わが国のヨーロッパ法史研究―近代法史研究の発展に向けて―」一橋論叢七七―四（一九七七年）
- 「ヨーロッパ近世法史上の法律家」ジュリスト七〇〇（一九七九年）

「ライプニッツの法改革論についての覚書」一橋論叢八四—三（一九八〇年）

「ギールケとその文庫」一橋大学・社会科学古典資料センター年報一（一九八二年）

「二六—一八世紀法学文献コレクション—法学文献社会学の対象として—」一橋大学・社会科学古典資料センター年報六（一九八六年）

「コーリングにおけるゲルマニスティクの成立」上山安敏還暦記念論集『ドイツ近代の意識と社会』（ミネルヴァ書房、一九八七年）

「西欧化と間主観性」法学教室七六（一九八七年）

「法の探究 *Iura novit curia*—適用法の客観的証明責任へ—」河上倫逸・ハーダー編『ドイツ法律学の歴史的現在』（ミネルヴァ書房、一九八八年）

「国立大学受験機会複数化の憂鬱」一橋論叢一〇一—一（一九八九年）

「紛争処理法制継受の一断面—勧解制度の意味するもの—」国際比較法制研究Ⅰ（一九九〇年）

「法を学び、法について考える」一橋論叢一〇五—四（一九九〇年）

「比較法史学への私法学からのアプローチ」比較法史学会編『歴史と社会の中の法（比較法史研究二）』（未来社、一九九三年）

「談合と指名競争入札制度—比較法文化論の観点から—」比較法文化（駿河台大学比較法研究所）二（一九九四年）

「談合と指名競争入札—法文化史的アプローチ—」一橋論叢一一一—一（一九九四年）

「上足文化・靴を脱ぐ文化—文化の受容と伝統—」小平学報（一九九五年）

「勧解と日本人の法意識」安丸良夫編『「監獄」の誕生』（週刊朝日百科・「日本の歴史」別冊『歴史を読みなおす』

二二) (朝日新聞社、一九九五年)

「グレーの法文化」比較法史学会編『文明装置としての国家 (比較法史研究五)』(未来社、一九九六年)

「訴訟費用の法文化史」比較法文化 (駿河台大学比較法研究所) 四 (一九九六年)

「情報公開条例の改正—平成十三年度武蔵野市の場合」駿河台法学一五—一 (一九九七年)

「公共工事と談合—埒社会における入札」土木学会誌八二—八 (一九九七年)

「地方自治体の情報公開条例の制定とその運用—武蔵野市の一五年—」駿河台法学一四—一 (二〇〇〇年)

「談合と法文化摩擦—公共工事適正化法の制定—」駿河台法学一四—二 (二〇〇一年)

「訴訟の周辺」駿河台法学一六—二 (二〇〇三年)

「法継受の展開—日本の『グレーの法文化』の形成」比較法文化一一 (二〇〇三年)

「法の継受とは何か」比較法雑誌 (中央大学) 三六・臨時増刊 (二〇〇三年)

「日本近代における外国法の継受をめぐって—比較法文化論への一つの視角」比較法 (東洋大学) 四〇 (二〇〇三年)

“Was ist die Rezeption des römischen Rechts?”, in *Hitotsubashi Journal of Law & Politics* Vol. 4 (1965)

“Friedrich Barbarossa und die sogenannte theoretische Rezeption des Römischen Rechts in Deutschland” in *Hitotsubashi Journal of Law & Politics* Vol. 5 (1967)

“‘Iura novit curia und fundatam intentionem habere’ als ein Niederschlag der Rezeption in Deutschland” in *Hitotsubashi Journal of Law & Politics* Vol. 13 (1986)

“A Grey Legal Culture” in Sean Coyle, *Studies in Legal Systems, Mixed And Mixing*, 1996.

Ⅲ 書評・翻訳・その他

書評「上山安敏『プロイセン官僚制成立史』」法制史研究一五（一九六五年）

書評「佐藤篤士『日本におけるローマ法学の役割』」法制史研究一七（一九六七年）

書評「上山安敏『法社会史』」一橋論叢五八—三（一九六七年）

書評「世良晃志郎『西洋中世における法と倫理』」法制史研究二七（一九七七年）

書評「新井誠『ヴィアッカーにおけるグロチウスの*promissio*の概念』」法制史研究三〇（一九八〇年）

書評「田中実『継受ローマ法をめぐるアウグズティン・ライザーの理論と実務』」法制史研究三八（一九八八年）

書評「山室信一『法制官僚の時代』」比較法史学会編『比較法史研究の課題（比較法史研究一）』（未来社、一九九二年）

翻訳「ハンス・ティーマ『ローマ継受時代の立法』」一橋論叢六六—四（一九七一年）

翻訳「ハンス・ティーマ『ローマ法継受時代の立法』」「ヨーロッパ法の歴史と理論」（石川武と共訳）（岩波書店、一九七八年）

翻訳「ヘルムート・コイニング『ヨーロッパ共通法の歴史的探究の必要性』」上山安敏監訳（ヘルムート・コイニング著）『ヨーロッパ法文化の流れ』（ミネルヴァ書房、一九八三年）

学会回顧—西洋法制史（法律時報四八—二三、一九七六年）

学会回顧—西洋法制史（法律時報四九—一四、一九七七年）

学会回顧—西洋法制史（法律時報五〇—一二、一九七八年）

「法文化比較余滴」法文化学会報1（一九九九年）

エッセイ「ゼラニウムを窓辺に」、「ふぐ（河豚）を食うということ」、「餡パン文化」、「犬の東西」、「フランダースの犬異聞」、「駿河台匂い」、「海苔—イギリスと日本」、「桐の花・桐一葉」、「鳥のいる風景1」、「ジャガイモの話」、「フクロウ・梟・木菟」、「兎は一羽」、「軽井沢 耳にする音」、「君が代とストロマトライト」、「我等が神さま仏さま」、「学びの途は果てし無く」